



平成 24 年 1 月 5 日

各 位

会社名	タカラバイオ株式会社 (コード番号 4974 東証マザーズ)
本社所在地	滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号
代表者	代表取締役社長 仲 尾 功 一
問合せ先	代表取締役副社長 木 村 睦
TEL	(077) 543-7212
URL	http://www.takara-bio.co.jp/
親会社等の名称	宝ホールディングス株式会社
代表者	代表取締役社長 大 宮 久 (コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

がん治療薬 HF10 の臨床研究開始について

タカラバイオ株式会社は、三重大学医学部附属病院と共同で、がん治療薬 HF10 の臨床研究を行うに際し、平成 23 年 12 月 22 日付けで契約を締結しました。本臨床研究は、当社が遺伝子治療の臨床開発の推進を目的に三重大学医学部に設置している遺伝子・免疫細胞治療学講座が中心となって実施されます。

がん治療薬 HF10 は、単純ヘルペスウイルス 1 型の弱毒型自然変異株であり、正常細胞ではほとんど増殖しませんが、がん細胞に感染すると増殖し、がん細胞を死滅させることが動物実験などにおいて示されています。このような抗がん作用を示すウイルスは、腫瘍溶解性ウイルスと呼ばれています。

今回の臨床研究では、標準治療での治癒が期待できない、体表から HF10 が投与可能な病変を有するがん患者を対象に、HF10 を複数回投与した際の安全性、体内動態および腫瘍縮小効果などの評価を行います。

HF10 には、ウイルスによる直接的ながん細胞の殺傷効果に加え、腫瘍免疫(がんに対する免疫力)を向上させることによる、投与部位以外のがん病変への効果が期待されますが、このような効果に関する基礎的な知見を得ることを目的に、免疫応答に関する評価も行う計画となっています。

なお、本契約締結による当社連結及び単体の平成 24 年 3 月期業績への直接的な影響は軽微です。当社は、2018 年度の商業化を目指し、現在米国において HF10 の第 I 相臨床試験を実施しており、本臨床研究を含めた HF10 の臨床開発を引き続き推進していきます。

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

< 参考資料 >

【語句説明】

単純ヘルペスウイルス 1 型

単純ヘルペスウイルス 1 型は、唇にできる口唇ヘルペス(口内炎)や、眼の角膜にできるびらん(単純ヘルペス角膜炎)などの原因となります。感染しても、多くの場合は症状をあらわすことなく体内に潜っていますが、ストレス・過労・病気などの要因で体力が低下すると症状をあらわします。アシクロビルをはじめとした抗ウイルス剤が有効です。

腫瘍溶解性ウイルス

腫瘍溶解性ウイルスとは、正常な細胞内ではほとんど増殖せず、がん細胞内において特異的に増殖するウイルス(制限増殖型ウイルス)です。増殖によって直接的にがん細胞を破壊し、さらにその際に放出されたウイルスが周囲のがん細胞に感染すること、また、破壊されたがん細胞の断片ががんに対する宿主の免疫を活性化することで、投与部位以外のがんも縮小することが期待されます。単純ヘルペスウイルス 1 型のほか、アデノウイルス、ワクシニアウイルス、レオウイルス等から作られた腫瘍溶解性ウイルスの開発が行われています。

以上